資料4－1

島田市地域防災計画

共通対策編
地震対策編
原子力災害対策編
風水害対策編
大火災対策編
大規模事故対策編
（計画の部）

平成３０年度

島田市防災会議

処理すべき事務又は業務
（7） 被災者の救助、救援に関すること。 （8） 被害に関する情報の収集、伝達及び被害調査に関すること （9） 市、関係課間との連絡調整に関すること。

8 県

処理すべき事務又は業務
（1） 県地域防災計画に掲げられている掌握業務 （2） 市及び防災関係機関の災害事務及び業務実施についての総合調整

第３節　市の自然条件

1　位置及び境域

市は県のほぼ中央に位置し、大井川沿いの平坦部を除いてほとんどが山林地帯である。

北は無双連山を始めとする山嶺を境に川根本町に接し、東は静岡市及び東北部の高根山から山稜の尾根を境にして藤枝市に接している。

西は浜松市、森町及び掛川市、南西部は菊川市、南は高尾山を境にして牧之原市に接し、東南部で吉田町及び大井川をはさんで焼津市に接している。

一級河川大井川をはじめ家山川、笹間川、身成川、伊久美川、相賀谷川、伊太谷川、大津谷川、東光寺川、大代川そして湯日川等の急流河川が流れており、大井川により運ばれた土砂の堆積によってできた平坦地が緩い勾配となって海岸へ向かっている。

面積・人口等　　平成27年国勢調査

東 西	南 北	面 積	人 口
約23km	約31km	315.70km²	98,112人

2　地形・地質の概要

市は、大井川扇状地のように平坦なところから、伊久身、笹間地区のように険しい山岳地帯に至るまで、変化に富んだ地形をしている。その状況によって次の７つに区分することができる。

地域	地形・地質等
伊久美川流域	（1） 平坦地が少ないため、狭い段丘面上を利用し、生活の場としている。 （2） 地質は、四万十層群と呼ばれる硬い砂岩と頁岩から構成され、この層は更に下部、中部、上部の３つに分けられる。 （3） 長島地区と西向から大森にかけては、四万十層群の下部層が分布しているが、この下部層は主に緑色から黒色の頁岩からできており、ところどころに砂岩と頁岩の互層が見られる。 （4） 中平から小川にかけての地区は、緑色の頁岩でできた上部層が分布している。 （5） その他広い地域は中部層で、リズミックな砂岩と頁岩でできている。これらの場所では、急傾斜や断層によって破壊された地帯も見られ、この地帯では地すべりの発生する危険性がある。地すべりは、水を含むと粘土化するような軟弱な岩石や、断層によって岩石地や断層が破壊され、断層粘土ができるようなところに集中的に発生している。この地すべりによって、道路や家屋、耕地に被害が現れているので、その対策には十分な注意が必要である。

地域	地形・地質等
相賀谷川流域	（1） 流域の山地を形成している地質は、伊久美川流域から連続している四万十層群と、南側に分布する瀬戸川層群とから成り立っている。 （2） 四万十層群と瀬戸川層群とは、相賀谷川右岸の山腹に北東から南西方向に走る笹山構造線と呼ばれる断層によって接している。 （3） 四万十層群は伊久美川流域の長島地区の断層と連続しており、下部層と中部層の砂岩、頁岩からなっている。 （4） 瀬戸川層群は主に相賀谷川右岸に分布する市之瀬と左岸に分布する滝沢層の２つから成り立っている。 （5） 滝沢層中には、蛇紋岩や玄武岩から成る貫入岩体が多数分布し、それらが山嶺を形成している。 （6） 北東から南西に走る断層によってできた谷（断層谷）を埋め広い直線的な谷底平野ができている。 （7） 相賀谷川流域は山の傾斜が比較的急で、山すそに小規模の地すべりがみられる。特に相賀谷川の両岸に広がる平坦地は基盤が浅く、谷の出入口やカスミ堤の末端では湿地となっている。 （8） 洪水のときには、内水氾濫が起こる可能性があり、流域面積の広い支流では土石流が発生することもある。 （9） 一方相賀谷川の左岸のうち、熱水変質作用を受けて岩盤がもろくなった所では崩壊が起こり易くなっている。
旧島田北方山地	（1） 本地域は、主に瀬戸川群層のもろい頁岩からなり、千葉山から大井川扇状地にかけてなだらかな山地、丘陵となっている。 （2） 市街地のすぐ北側の山地には段丘礫層が乗っており、その周辺部で小規模地すべりが発生しているので注意を要する。 （3） これらの山地は、西から伊太谷川、大津谷川、東光寺谷川などの大井川の支流により削られ、開析が進んでいる。 （4） それぞれの河川は、北から南にかけて大井川扇状地に流れ込み、谷底平野を形作っている。この谷底平野は、沖積層の粘土・シルトからなり、泥炭や有機質を含み、非常に不安定な地質であり、地震動に対して危険な地域となっている。
大井川扇状地	（1） 駿河湾に向けてラッパ状に開いた大井川扇状地は、大井川が堆積した砂礫層でできている。 （2） この砂礫層は最大65mにもなるが、大井川層群、瀬戸川層群を基盤として、最下部が粘土混じりの砂礫からなり、その上部は礫径の大小の変化を伴いながら、同じような砂礫が累積した形になっている。 （3） このため他の地域に比べ地震に対して安定した基盤となっているが、ただ扇状地の上に残っている旧河道は、泥質の堆積物でできているため、地震のときには不安定で危険な地域となっている。
湯日川流域	（1） 本流域は、瀬戸川層群・大井川層群・相良層群を基盤とし、これをおおう古大井川の堆積物である牧の原礫層下部には、湧水やそれに伴う地すべりが発生しており、特に上流部の多くは地すべり防止地区に指定されている。したがって地すべり面の排水対策などが必要である。 （2） 河床は、泥質堆積物により谷底平野となっており、大津谷川と同様に地震動に対して危険な地域となっている。
金谷地区	（1） 大井川右岸に面している金谷地区は、平地はおおむね礫質地盤で一部大代川流域に挟まれる所に旧流路の細長い砂泥礫地盤を発展させている。 （2） 大代川流域は礫質地盤でほとんど軟弱地盤は見当たらない。 （3） 牧の原台地を背にしている地域では湧水やそれに伴う地すべりが発生しており、地すべり防止区域に指定されている。したがって地すべり面の排水対策などが必要である。
川根地区	（1） 川根地区の地質は、中世代三倉累層群（伊久美層群、徳山層群）及び沖積層によって構成され、総面積の約95%が三倉累層群によって占められ、身成川、大井川に沿った一部に沖積層（河岸段丘）が見られる。 （2） 土壌は礫質壌土及び礫質植壌土で腐植に富み、地味も良好である。 （3） 地区の面積の約９割が山地であり、地形が錯そうし、急傾斜地が多く山地災害が起こりやすい環境にある。

3　気候

市の気候は、温和で典型的な太平洋岸式気候を示している。冬は北西の季節風の影響により晴天で乾燥した日が続き、夜は冷え込みが大きく霜の降りる地域も広くある。

逆に夏は太平洋からの湿った暖かい風の影響で高温多湿となり、内陸では午後に雷雨になる場合も多くある。

（平成28年版　市統計書より）

気　温	平成28年の平均気温は15.8℃、気温は一番寒い１月の平均気温が5.2℃で、もっとも暑い８月の平均気温は26.0℃となっている。
降水量	（１）　平成28年の年間降水量は、最寄りの観測点であるアメダス菊川牧之原で2,258.5mmとなっており、大井川の下流域から上流域にかけて降雨量は多くなっていく。 （２）　そして中流域から上流域にかけては県内でも雨量の多い地域となっている。 （３）　また、雨量は９月が最大で、５月、８月の順となっている。
日照時間	平成28年の日照時間は約2,119.5時間となっており、日照時間の多い月は８月で約236.5時間、少ない月は９月で約103.0時間となっている。
風	平成28年の平均風速は2.0m/s、４月、８月、10月が強く平均風速2.2m/sで、もっとも弱い２月の平均風速は1.6m/sとなっている。最大風速は５月４日の11.6m/sである。
天気	市の気候は、温和で典型的な太平洋岸式気候を示している。冬は北西の季節風の影響により晴天で乾燥した日が続き、夜は冷え込みが大きく霜の降りる地域も広くある。 逆に夏は太平洋からの湿った暖かい風の影響で高温多湿となり、内陸では午後に雷雨になる場合も多くなる。

第４節　市の社会条件

平成17年５月５日、旧島田市と旧金谷町が合併し、新しい島田市が誕生した。

両市町は、大井川、牧之原台地など地理的なつながり、かつて東海道の宿場町であった歴史的なつながりが深く、経済活動、文化日常生活など様々な面で一体的な生活圏を形成しており、住民相互の交流も活発に行われている。

平成20年４月１日には、島田市と旧川根町が合併した。

両市町は古くから大井川流域の歴史的なつながり、さらに近年の経済・文化・生活など様々な面で強い結びつきをもっており、住民相互の交流も活発に行われている。

平成22年国勢調査では、15歳未満が減少し65歳以上は増加となっており、県平均を上回る少子高齢化が進展している。また、産業別就業者の状況は、平成17年に比べ第一次産業、第二次産業の比率が減少し、第三次産業で増加している。

主要作物は、お茶、レタス、米、バラ等があげられる。全国に誇れる川根茶をはじめ、東洋一の大茶園牧之原台地を中心として市内各地で生産されるお茶は、茶どころ静岡県にあって15%以上の栽培面積を占めている。

市内には２本の国道と20本の県道、東名高速道路及び新東名高速道路がある。また、湯日地区には富士山静岡空港があり、交通の要衝として高い利便性を確保している。

当市は、関東圏と中京圏を結ぶ陸上交通の主要幹線が大井川を渡る形で存在する。また、静岡空港、30km圏内に浜岡原子力発電所や清水港・御前崎港といった重要港湾及び航空自衛隊静浜基地が存在する。また、市の所在する志太榛原地域は、沿岸部から内陸部にかけての十分な地積がある事から中部圏における大規模災害対応における重要な防災拠点となりえる。

第５節　予想される災害と地域

1　地震

本計画において、県第４次地震被害想定で公表した駿河トラフ・南海トラフ沿いと相模トラフ沿いで発生するレベル１（発生頻度が比較的高く、発生すれば大きな被害をもたらす地震・津波）・レベル２（発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの